



- 生成AIをうまく使ってみる
- クローズアップ（谷口 准教授）
- お知らせ
- TIPS
- おすすめの本紹介
- 便利なアイテム紹介
- コラム（伊東 准教授）



ITだよりは、情報統括本部が提供する各種サービスやIT技術に関する役に立つ情報を、九州大学の皆さまに知っていただくための広報誌です。

生成AIを うまく使ってみる

生成AIは、私たちの日常に欠かせないものになりつつあります。思わぬ形で利用していることもあり、不安になることもあります。きちんと理解し知識を深めれば、うまく付き合えるようになるでしょう。せっかくの便利な機能、コツをつかんで上手に使ってみませんか。



内田 誠一
理事・副学長
情報統括本部副部長
CIO

生成AIとは、 その名の通り「何かを作り出すAI」であり、様々なバリエーションがあります。このうち、こちらの質問文に応じて回答文を作り出すのが、ChatGPTやCopilotのような対話生成AIです。

基本的にAIは学習したことの組み合わせしか生成できません。しかし、ネット上での膨大な対話やテキストを使って学習したことで、非常に高精度に機能するようになりました。対話だけでなく、翻訳、要約、推敲、そして指定した内容の作文も可能です。これらを条件付きで行う（例えば「5行以内で、小学生向けに要約せよ」など）ことも可能です。さらに「このファイルの内容を使いつつ対話してほしい」といったカスタマイズもできます。使うだけなら、AIの原理に関する知識は一切不要。ぜひ一度使ってみてください。

P3に生成AIの具体的な活用事例を紹介しています

～ プロンプトを学ぼう ～

プロンプト?

prompt = 促す、迅速な

「何でも聞いてください」や「お手伝いできることはありますか?」といったメッセージが、CopilotやChatGPTなどのアプリを開くと表示されます。このテキストボックスに入力する、生成AIに指示を与えるための文が「プロンプト」です。チャット形式でAIにプロンプトを重ねることで、回答を導き出していきます。

生成AIを使っていると、意図した回答が得られないなど、うまく使いこなせていないと感じることがあるかもしれません。そんな方にこそ、プロンプトの学習をおすすめします。プロンプトを理解し、学ぶことで、AIをより効果的に活用できるようになるでしょう。

プロンプト学習に
おすすめのサイト

学ぶ!

生成AIを
うまく使ってみる



<https://promptforus.com>

P4Us Prompt Guide for University staff 生成AI利用者のためのプロンプトガイド

このサイトは、元本学職員の森木銀河さんにより作成された「大学職員のためのプロンプトガイド」で、Webで一般公開されています。生成AIを使って効率よく仕事や情報収集をしたい、また、生成AIについて理解したい、学びたいと考えている皆さんにおすすめです。



作成者/森木銀河 (<https://gmoriki.com>)

生成AIとの基本的な向き合い方、使うときの注意事項、プロンプトの書き方、回答の精度を上げる過程などが、具体的にわかりやすく書かれています。また、基本から応用まで、テンプレートを使って学ぶことができます。大学職員だけでなく、学生などこれから生成AIに触れていこうという方にも参考になるのではないのでしょうか。



学習履歴を分析し可視化することで 学生にも教員にも、よりの確な学習支援を目指す

今回は、九州大学情報基盤研究開発センター教育情報基盤研究部門に所属し、プログラミング演習における学習履歴をもとに学習支援システムを開発する谷口雄太准教授に、ご自身の研究内容と今後の展望を伺いました。

— 学生の学習履歴をどう教育に活かすかという研究をされているとか。

デジタル技術を用いて学生の学習履歴を取得、分析し、学習状況に応じたフォローを行う学習支援システムの研究をしています。学生がその問題にどれくらいの時間をかけたのか、どのように解いていったのかなど、包括的に集めた学習履歴をもとに分析すると、成績が振るわなかった学生と良かった学生の問題への取り組み方の違いがデータとして見えてきます。例えば、こうした違いを情報として提供すれば、学生が自身の学習について客観的な視点をもつ手助けとなります。また、クラス横断的に分析をすれば、教員にも同様の支援が可能です。

— どのように学生の学習履歴を取得し、分析されているのですか。

プログラミングの授業を受け持っていて、そこでは学生の手が止まるごとに書きかけのソースコードを自動記録する仕組みを実装しています。プログラムが完成に至るまでの経路は無数にあり、学生により異なる辿り方になります。例えば道筋が見えている学生はほぼ手を止めずに最短で辿り着くでしょう。一方で、理解が不十分な学生は何度も手を止めながら、書いたり消したりを繰り返すかもしれません。そういった学生ごとの学習状況をリアルタイムで捉えられれば、質問がなくてもどの学生が悩みを抱えているのか予測し、優先してサポートできます。加えて、授業資料のどのページをいつ、どのように見たのかについても学習履歴を記録しておけば、学生の知識量を押し量り、よりよいサポートに繋がると考えています。

— 研究の先に、今後どのようなことを実現したいとお考えですか。

学習履歴を可視化することで、学生の辿った軌跡を視覚的に把握することができるようになりました。ただ、それでも見えていない情報が多く残っているので、今後は学習履歴をより高い次元で分析できるようにしたいと思います。例えば学生ごとにパーソナライズした予測モデルを構築して、新しい問題を解くときにはそのモデルのもと事前につまずきそうな箇所を予測、よりの確な支援を行えるようにしたいです。最近ChatGPTのような言語系の生成AIが急速に発達しています。うまく連動できれば自宅学習など教員が手を差し伸べられない状況であっても、機械が自動で学生を支援できる未来が来るかもしれません。学生がより自律して、より効率的に、より客観的な視点をもって学習を進められる、そういった未来を創っていきたいと思います。

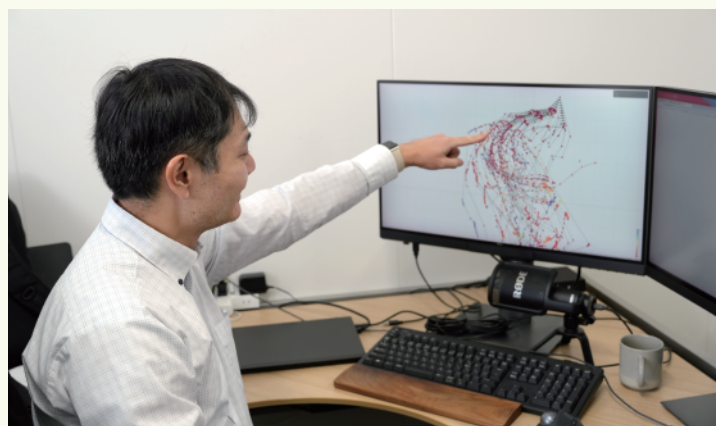
Episode Talk

学生のころの実体験が達成感に

情報あふれる現代だからこそ、雑多な情報の中から隠れた有益なものを拾えたときは何とも言えない達成感があります。例えば、私は学生のころゲーム配列を対象としたデータマイニングの研究をしていて、これまでにないかたちでデータを可視化したところ、専門家の先生から「(あのデータが)このような風になるのか」と驚かされたことがありました。視点を変えることで、専門家でも見えなかったものが見えてくるんだ、データに埋もれた情報はまだまだいっぱいあるんだ、ということを実感した体験でした。

谷口 雄太 准教授

情報基盤研究開発センター 教育情報基盤研究部門 准教授
徳島大学で勤務したのち、2016年に九州大学のラーニングアナリティクスセンターに着任。現在はデジタル技術を用いた学生の学習履歴の取得、解析によって、学生および教員への適切なフォローを可能とする学習支援システムの構築に取り組む。



可視化したデータを見ながら

～ 生成AI活用事例 ～

生成AIを
うまく使ってみる

生成AIを日頃から業務に使っている方の、具体的な活用事例を紹介します。
作業効率化のヒントにしてみてください。

打ち合わせ メモ

クラウドを利用しないAIボイスレコーダーと Copilotで、簡単に「打ち合わせメモ」を作る

Kさんは
こんな使い方を
しています



簡単な打ち合わせを行う際、毎回打ち合わせメモを作成する時間があったくないと感じていませんか。そんな時は、生成AIとAIボイスレコーダー(3～4万円程度)を併用すれば、4ステップで短時間に作ることができますよ。

- ① AIボイスレコーダーで録音(自動文字起こし)
- ② 自動文字起こしデータをパソコンに取り込み
- ③ Copilotに以下のプロンプトを入れて、データを添付して要約
- ④ 要約内容を人間が微修正して、完成

要約時のプロンプト

あなたはプロの編集者です。
以下の内容を忠実に守り、アップロードしたファイルのテキストデータを編集して最高の議事録を作成してください。

#前提条件

アップロードしたファイルの内容は、会議の文字起こしデータです。

#制約条件

- ・ケバ取りを行ってください。
- ・文脈として意味が不明な箇所は、文脈的に相応しいと合理的に推測される内容に修正、または削除してください。

#出力形式

- ・まず、会議で特に重要な内容について箇条書きで要旨を作成してください。
- ・次に、議事録を作成してください。
- ・それらをここにテキスト出力してください。

メール

気を遣う相手へのメールを簡単に作成する



ビジネス的な気を遣う文章を
作る時間がないときに

Sさんはこんな使い方を
しています

プロンプト

取引業者へ提供しているVPNアカウントから異常な通信がされた可能性があるため、取引業者の情報漏洩を心配しつつそれを知らせるメールの文面を作ってください

Copilot

以下のような文面はいかがでしょう？

件名:【重要】VPNアカウントの異常な通信について

取引業者各位

お世話になっております。貴社に提供しておりますVPNアカウントにおいて、異常な通信が確認されましたのでご報告いたします。

【異常な通信の詳細】

日時: [異常が発生した日時]

通信元IPアドレス: [IPアドレス]

通信先IPアドレス: [IPアドレス]

通信内容: [簡単な説明]

この異常な通信は、情報漏洩の可能性を含むセキュリティリスクを引き起こす可能性があります。貴社の重要な情報が漏洩している可能性があるため、早急にご確認いただき、必要な対策を講じていただきますようお願い申し上げます。

また、弊社としてもこの問題の原因を調査し、再発防止策を講じる所存です。何かご不明点やご質問がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

[あなたの名前] [あなたの役職] [あなたの連絡先情報]

この文面で、取引業者に対して異常な通信の発生を丁寧に伝えつつ、情報漏洩のリスクについても注意を促すことができます。何か追加や修正が必要な点があればお知らせください。

生成AI
解答例

- Microsoft Copilotは、九州大学の Microsoft 365アカウント(SSO-KID)でサインインすることで利用可能です。
- 利用方法は、情報共有基盤事業室 Webページ (<https://ci.iii.kyushu-u.ac.jp/365/copilot/>) を参照してください。

Windows 10 学内利用禁止の予定について

Windows 10 サポート終了

Windows 10のサポートが2025年10月14日で終了します。2025年10月14日以降、Microsoft から、セキュリティ修正、機能更新プログラム及びテクニカルサポートが提供されなくなります。そのため、不正アクセスやマルウェアに感染するリスクが高くなり、サポート終了後もWindows 10を使い続けることは、情報漏洩や犯罪被害を引き起こす恐れがあります。

Windows 11 へアップグレード or 機種変更を

Windows 10は、2025年10月14日のサポート終了後、Microsoft 365 アプリのシステム要件を満たさなくなるため、Microsoft 365 アプリが利用できなくなります。

また、2025年10月14日以降、Office 2016とOffice 2019のサポートも終了します。使用しているWindows 10の端末がWindows 11へアップグレード可能か確認のうえ、システム要件を満たしている場合は、Windows 11に更新し、満たしていない場合は、Windows 11に対応した機種に変更してください。



なお、Windows 10は、NAS、デジタルサイネージ及び実験装置等の様々な用途で使用されていますので、漏れがないように確認を行い、対応を検討してください。

Windows 10のネットワーク通信制限を予定

サポート終了後、Windows 10の端末は学内ネットワークの運用に影響を及ぼす可能性があるため、九大CSIRTは九州大学情報セキュリティ対策規程第23条第3号に基づき、Windows 10の端末のネットワーク通信を原則的に制限する予定です。

〈お問合せ〉九大CSIRT

E-mail : security-room@iii.kyushu-u.ac.jp

TIPS チップス

知らなくても困らないけど、知っていたら便利な豆知識、コツ、秘訣、裏技などを紹介します

Windows

標準搭載

付箋アプリ

(Mac で使う場合はスティッキーズアプリ)

このアプリは、デスクトップにメモを貼り付ける感覚で使える便利なツールです。誰でも簡単に使いこなせるので、ぜひ試してみてください。



付箋アプリを起動するには、スタートメニューから「付箋」と検索するか Windows キー+S キーを押して検索バーに「付箋」と入力します。

アプリが起動したら、画面にメモを追加するだけです。メモの色を変えたり、フォントを変更したりすることもできます。

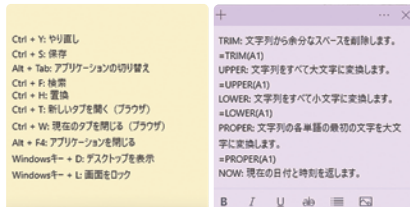
付箋アプリのショートカット

新しいメモを作成 **Ctrl** + **N**

メモを削除 **Ctrl** + **D**

〈おすすめの使い方〉

ショートカットキーの一覧やよく使う関数を付箋にメモ。忘れがちなキー操作もすぐに確認でき、必要なときすぐにコピペできます。



おすすめの**本**紹介

図書館職員に九大図書館の人気資料を紹介してもらいました

ゼロから作る Deep Learning



[シリーズ]

<https://hdl.handle.net/2324/1001661317>

著者：斎藤康毅 出版社：オライリー・ジャパン 出版年：2016～

「ゼロから作る Deep Learning」シリーズは、深層学習の理論と実装を実践形式で学べる人気資料です。コード例を見て、実際に動かしながら学ぶというスタイルで書かれています。2016年の「Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装」に始まり、「自然言語処理編」(2018)、「フレームワーク編」(2020)、「強化学習編」(2022)、「生成モデル編」(2024)と、様々なテーマで展開されている人気シリーズです。これから深層学習を学んでみたいという方、ぜひ図書館で手に取ってみてください。



おすすめの**アイテム**紹介

仕事や作業に役立つ便利なアイテムを紹介します

1冊でも倒れないブックスタンド

〈LIHIT LAB.〉

これは便利!

可動式のストッパーが付いたブックスタンド。本を立てるときストッパーが上がり、1冊ずつ立てることができます。本を抜くとストッパーが下がるので、隣の本が倒れません。

デスクの上の本や資料などを、常にきれいに整理収納できるおすすめアイテムです。



<https://www.lihit-lab.com/products/catalog/a-3575.html>

Column

情報基盤研究開発センター 応用データ科学研究部門 伊東 栄典 准教授

2022年末のChatGPT登場から、各種の生成AIが登場し、かつ急速に機能を向上させてきています。私が、文章生成AI(有料ChatGPT、無料Gemini)を大学の活動に用いる方法を示します。

研究者のAI利用では文章生成、要約、外国語(へ)の翻訳が多いでしょう。英語論文を読む際に翻訳して読み、その後に英文を読むと理解が早いです。英語論文の作成時には文法チェックや言い回しの洗練化に用いています。ただしAIが正しい文章を生成するとは限らないので、人手での内容確認は必須です。

私は情報系の研究者ですので、頻繁に使う機能はマニュアル検索とプログラム作成です。「Python言語で〇〇を行うコードを示して」と入力するとコードが生成されます。結果が異なる場合、追加機能、削除機能を詳しく指定します。求めるものに近いコードが生成されたら、最後に自分で調整して完成です。データ処理の使い捨てコード生成では作業効率化は絶大です。

またデータの整形にも有用です。参考文献を引用する場合「以下の参考文献文字列をbibtex形式に変換して」とすると、煩雑な整形作業が軽減できます。パワーポイントのスライド少数枚数から「文章を作成して」も使います。皆様の作業効率化に役立てれば幸いです。くれぐれもAI生成内容の確認を忘れずに。